図書館だより

能勢高図書館　2012. 9.

文化祭も近づき、学校全体が活気に満ちている今日この頃です。 図書館にも新しい本がたくさん入ってきました。秋の夜長、勉強に疲れたら本を読んで頭の中をリフレッシュをさせてみませんか？

☆図書館からのお願い

○現在、分類ごとにラベルの色を変えています。本棚から出した本は、元あったところに　きちんと返しましょう。

○図書館の中では携帯電話の使用、飲食が禁止されています。気をつけましょう。

☆新しく入ってきた本の案内と紹介

農業系の本

『つくってあそぼう』シリーズ　第8集　36巻～40巻　こしみずまさみ編　農文協
㊱ 保存食の絵本①野菜　㊲ 保存食の絵本②くだもの　㊳ 保存食の絵本③米・麦・豆・いも　㊴ 保存食の絵本④乳・肉　㊵ 保存食の絵本⑤魚介

『日本人は植物をどう利用してきたか』中西弘樹　岩波ジュニア新書

『園芸図鑑　家庭果樹』　柏書房

『知ろう　食べよう　世界の米』　佐藤洋一郎　岩波ジュニア新書

＊日本人が米を食べる量は昔に比べ少なくなった、といわれて久しい。とはいえ、今でも1人平均1年間に 60 kg、1日に 1 合の米が食べられている。米は日本人の身近な食材であるにもかかわらず、その米について多くを知っている人は少ない。本書は、世界にある米の種類、栽培や調理の方法、食べ方について紹介し、それぞれの国の風土と米がどのように関わってきたかについて書かれた本。

数学・科学系の本

『論理的思考のための数学教室』小田敏弘　日本実業出版社

『わすれた算数・数学の勉強』　南澤巳代治　パワー社

『直観でわかる数学』　畑村洋太郎　岩波書店

『続　直観でわかる数学』　畑村洋太郎　岩波書店

『マンガおはなし数学史』　仲田紀夫･原作　佐々木ケン･漫画　講談社

『ガリレオ工房の科学あそび1家族そろって楽しめる新ワザ70選』滝川洋二ほか　実業之日本社

『ガリレオ工房の科学あそび 2 おもしろ実験新ワザ66選』滝川洋二ほか　実業之日本社

『ガリレオ工房の科学あそび 3 親子で楽しむ知的刺激実験 57 選』滝川洋二ほか　実業之日本社

『ガリレオ工房の科学あそびエコCO_2』　滝川洋二ほか　実業之日本社

『マンガ化学式に強くなる　さようなら、「モル」アレルギー』　高松正勝　講談社

『音律と音階の科学ドレミ･･･はどのようにして生まれたのか』　小方厚　講談社

『なぜ、めい王星は惑星じゃないの』　布施拍治　くもん出版

『ニュースの科学用語これでわかった！』北海道大学CO　STEPサイエンスライターズ　技術評論社

『重力とは何か』　大栗博司　幻冬舎新書

『デタラメにひそむ確率法則』　小林道正　岩波書店

＊「天気予報で雨が降る確率 70%」「確率3分の1」「今後 30 年以内に東海地震が起きる確率 87%」「今後首都圏で 30 年以内に大型地震が起こる確率が 98%、4 年以内なら 70%」これら確率の数字の意味が分かりますか。本書は数字のマジックにだまされることなく、一定の法則性を見つけることでその意味を正しく読み解いていく本。

国語関連の本

『現代語訳　論語』　斎藤孝　ちくま書房

『テレビの日本語』　加藤昌男　岩波新書

『論理力を鍛えるトレーニングブック』　渡辺パコ　かんき出版

『読書力』　斎藤孝　岩波新書

『何を書けばいいのかわからない人のための小論文のオキテ55』
代々木ゼミナール講師･鈴木鋭智　中経出版

＊「何を書いたらいいのかわからない」「そもそも“意見”って何？」「いつも時間切れになってしまう」これら受験生の悩みを解決するための 55 のオキテの詰まった 1 冊。「どう書くか」ではなく「何を書くか」について書かれた本。

物語・詩・ノンフィクション

『夜の国のクーパー』　伊坂幸太郎　東京創元社

『英雄の書』　宮部みゆき　光文社

『獣の奏者』1～8　上橋菜穂子　講談社

『虎と月』　柳 広司　理論社

『村田エフェンディ滞土録』　梨木香歩　角川文庫

『猫を抱いて象と泳ぐ』　小川洋子　文春文庫

『三匹のおっさん』　有川浩　文春文庫
『武士道シックスティーン』　誉田哲也　文春文庫
『武士道セブンティーン』　誉田哲也　文春文庫
『武士道エイティーン』　誉田哲也　文春文庫
『悩む力』　姜尚中　集英社新書
『緑の石食い虫』　クナーベ　西村書店
『吉野弘詩集』　吉野弘　角川春樹事務所
『ビューティフルマインド』　シルヴィア・ナサー　新潮社

えほん

『うわさごと』　梅田俊作　汐文社
＊原爆症を例にうわさから広まる差別について考えさせられる絵本。

マンガ

『最果てアーケード １ 』　原作・小川洋子　漫画・有永イネ　講談社
『最果てアーケード ２ 』　原作・小川洋子　漫画・有永イネ　講談社
＊ここは世界で一番密やかなアーケード。それぞれ個性的な店主たちが所狭しと軒を連ねている。死んだ生き物が使っていたレースだけを扱う「レース屋」、動物のそれだけを扱う「義眼屋」、円形に異常な執着を持つ「ドーナツ屋」など。主人公の「わたし」は、そんなアーケードの現大家。幼いころ病気で母を亡くし火事で父を亡くした今、そんな店主たちとのやり取りの中で、忘れていた大切な思い出の数々を取り戻していく。そして、ここにやってくるお客様もなぜか死の匂いのする人ばかり、それは偶然のことなのかそれとも・・・

家庭科系の本

『正しいパンツのたたみ方　新しい家庭科勉強法』　南野忠晴　岩波ジュニア新書
『ミツカン社員のお酢レシピ』　ミツカン　幻冬舎
＊1日大さじ1杯のお酢を毎日とることは、健康維持にたいへん役立つ。お酢はただ体にいいだけではなく、少しの量で食材をおいしくしてくれる魔法の調味料でもある。本書はそれを魅力的なレシピで紹介する。1章～6章は次の通り。①おいしさ引き立つ肉料理。 ②お酢によく合う魚と野菜料理。 ③みんな大好き！ごはん・麺・パン ④いろいろスープ⑤なんでもピクルス ⑥お酢ドリンク＆スイーツ。

スポーツ系の本

『野球のメキキ』　野村克也　東邦出版
『やってはいけない筋トレ』　酒詰真二　青春出版社
＊筋トレに対し、やっているにもかかわらずその効果が表れず不満や悩みを持っている人に対して書かれた本。トレーナー歴25年の著者が「少ない労力で最大の効果が得られる効果的な筋トレ」を伝授。

仕事関係の本

『「物流」で働く』　広田民郎　ぺりかん社
『ネイリストになるには』　津留有郎　ぺりかん社
『環境技術で働く』　藤井久子　ぺりかん社

その他

『気仙沼に消えた姉を追って』　生島淳　文藝春秋
『発達障害と向き合う』　竹内吉和　幻冬舎ルネッサンス新書
『ビジュアルディクショナリー英和大辞典』　日東書院

今月のいちおし

『緑の石食い虫』　クナーベ　西村書店

みなさん、この本の作者は何歳の時にこの物語を書いたと思いますか？実は、・・・小学校5年生、11歳の時のものなのです。「なんだ、小学生が書いたものか」と侮ってはいけません。普通の小説以上に、ハラハラドキドキさせられ何と言ってもおもしろすぎるのです。今からその一部を紹介しますが、是非是非手にとって自分でそのおもしろさにはまってみてください。

主人公はドイツの小学校に通う小学5年生のベルンハルト君。彼の父は民族学者でしょっちゅう外国に探検に行っている。ある日、彼は父の留守中に父の書斎からビニールケースの中に入った土の固まりを見つける。ビニールケースの裏には「ダシュト・エ・カヴィール、イラン、グリーン・ストーン・バイダー、緑の石食い虫、警告、開封厳禁」と書かれている。興味を持った彼は、その封を開けると、土の固まりを巣にした、小さな緑色の頭でするどくとがった歯をもつ小さな虫たちがその中で生きていることを発見する。「作文のネタにもってこいのものを見つけた」と喜んだ彼は、翌朝、それをマッチ箱に入れて学校に持って行く。だが、そこから悲劇は始まるのだった。マッチ箱から逃げ出した緑の石食い虫は、まずは、学校のホワイトボードの壁面の石に忍び込んだ。その後は、教室の天井裏に忍び込み、天井がぼろぼろと崩れて落ちてくる事態を巻き起こした。虫たちが食べていた痕跡として、いつも白い粉が一緒に落ちてきたが、その教室にいた先生や生徒の頭や服にも白い粉と一緒に虫がとりつき、それぞれが自分の家や行く先々に虫たちを運び込む結果となり、街中は大パニックの渦に包まれていくのであった。自分のちょっとした興味からこんなにも大きな事件にしてしまったベルンハルト君は、責任を感じ両親に本当のことを話し、事件解決のために、この後動いていくことになる。果たして彼は自分の住む街をこの窮地から救い出すことができるのか。